

今年の梅の開花は少し早まりそうとの情報です。もう少し寒い日々は続きますが、あったかくして梅林巡りを楽しみたいと思っています。  
現在会員登録数 4,018 人さま。次号は 3 月 18 日発行の予定です！

十-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----十

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

十-----十

■-----■  
【1】お知らせ

● 講演と対談「日本児童文学が宮沢賢治から受け取ったもの」

日時：3月21日（火・祝）13：30～16：15

講師：富安陽子（童話作家）、宮川健郎、大島丈志、遠藤純（宮沢賢治研究者）

場所：大阪府立中央図書館ライティホール 参加費：無料 定員：300人

主催：宮沢賢治学会イーハトブセンター、日本児童文学学会関西例会、IICLO

詳細・申し込み→ <https://20230321kenji.peatix.com/>

● 国際講演会「日本の子どもの本に描かれる「西洋」のイメージ石井桃子  
翻訳作品からはじめてー」

日時：3月25日（土）14：00～16：00

講師：スティーブン・チェ（児童文学研究者） 聞き手：土居安子（IICLO）

場所：大阪府立中央図書館 多目的室 参加費：無料 定員：50人

詳細・申し込み↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#050325](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#050325)

● IICLO オンライン講座 I 「授業に役立つ！子どもの文学5つのレッスン」

（全5回） ※3月31日まで配信中！

〔1〕宮沢賢治を読み直す①「注文の多い料理店」

〔2〕宮沢賢治を読み直す②「雪渡り」

〔3〕あまんきみこを読み直す①「白いぼうし」と「名前を見てちょうだい」

〔4〕あまんきみこを読み直す②「ちいちゃんのかげおくり」

〔5〕（特別編）「あまんきみこさんに聞く読むことの喜び」

視聴料：各回1300円、各回ごとにお申し込みください。

気になる回だけの視聴も可能。期間中は繰り返しご覧いただけます。

申し込み→ <https://iiclo.peatix.com/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

\* 年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/@iiclo1196>

公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【2】コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

\*\*\*\*\*

「光草—ストラリスコー」 ロベルト・ピウミーニ/作 長野徹/訳 『小学館世界J文学館』野上暁/編集顧問、浅田次郎、角野栄子、金原瑞人、さくまゆみこ、沼野充義/編 小学館 2022年11月所収 対象年齢：小学校高学年以上

\* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家のよしとみあや（A）さんです。

\* 作品の結末まで書いています。

あらすじ：トルコの画家サクマツトは、太守ガヌアンに、直接、太陽の光や空気に触れられない病弱なガヌアンの息子、マドウレールのために絵を描くことを依頼される。サクマツトは、部屋から一步も出ることができないマドウレールと想像豊かな対話をしながら、部屋中の壁に山や海、羊や海賊船などの絵を描いていく。そして、時間とともにその絵は変化していく。

A：久しぶりに再読しましたが、やはり、素晴らしい作品だと思いました。

Y：私も心の中に絵が浮かぶ作品で、前読んだときの鮮烈なイメージを蘇らせながら再読しました。

A：何といたっても私が好きなのは、サクマツトの描く絵がマドウレールの病状によってどんどん変化していくところです。命あふれる絵から始まって、マドウレールが死を迎えるにあたって、絵が描き変えられていきます。読んでいて悲しい気持ちになりますが、同時に、マドウレールの死を本人も、サクマツトも太守も受け入れていく過程が強く心に残ります。

Y：私が一番印象に残ったのは、「芸術とは何か」ということを考えさせられたところでした。この絵は、大勢の人に見せるため、後世に残すため、サクマツトという画家の名声を得るために描かれたのではなく、マドウレールという一人の子どものために誠心誠意描かれます。絵は、マドウレールとの対話の中で生まれます。部屋に閉じ込められたマドウレールは、本など

から得た知識を総動員しながら、サクマツトと対話をし、描いて欲しい絵を伝えます。絵には物語が宿ります。途中でマドゥレールもサクマツトの絵の中に絵を描き込むようになります。そして、一度描かれて終わりではなく、その絵がどんどん描き変えられていきます。こんなふうに、ふだん私たちが接している芸術的絵画のありようとは異なるものの、作品を読んでいると、この世に一つとない、芸術が生まれたことを確信します。

A：サクマツトのすばらしい人間性は、マドゥレールが絵を描きたいと言ったときに、「気づかずに悪かった」というようなところからも読み取れます。また、マドゥレールの死のあと、サクマツトが筆を折ったというところも心に残りました。

Y：この作品はイタリアではどのように評価されていますか。

A：現在では大御所と見なされているピウミーニが1987年、40歳のときに書いた作品になります。タブーとも言われる死を美化せずに描いた作品として高く評価されました。

Y：この作品は、『小学館世界J文学館』という125冊が入った電子書籍の一冊です。

A：訳者の長野徹さんが初めて訳された児童文学作品（小峰書店 1998年10月）が絶版になっていたにもかかわらず、改訳され、このような形で読めるようになってとてもうれしいです。ほかにもバラエティに富んだ作品があるのがこの本の魅力だと思いました。そして、全集といっても、ページ数が自由で大作がカットされていないのもいいですね。

Y：古典名作から新刊まで、世界のいろいろな児童文学作品が掲載されていて読み応えがあります。新しい出版形態だと思いました。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第90回「北守将軍と三人兄弟の医者」

#### 老将軍の帰還

首都ラユーに将軍と兵隊たちが帰ってきたけれど、「みな灰いろでぼさぼさして、なんだかけむりのよう」です。それでも、先頭の白馬の将軍は、まがった背中で大きな剣を空にあげ、声高々と歌います。——「北守将軍ソンバーユーは／いま塞外の砂漠から／やっとのことで戻ってきた。／勇ましい凱旋だと云いたい／実はすっかり参って来たのだ」「北守将軍ソンバーユーと／その軍勢が帰ったのだ／門をあけてもいいではないか。」

将軍は、寒いところで30年間も戦ってきたのです。敵が残らず脚気で死んだために、ようやく帰ってきたのですが、彼は、もう70歳になっていました。

疲れ果てている将軍のめんどろを見たのが、町の崖のとっぱなに三つの病院をならべて建てている三人兄弟の医者、リンパー、リンプー、リンポーでした。リンパー先生は人間の医者、リンプー先生は馬や羊の医者、リンポー先生は草や木の医者です。

将軍は、脚が硬直して馬と一つになって、鞍から降りられません。まず、リンパー先生が将軍を薬でじゃぶじゃぶ洗います。つづいて、リンプー先生が白馬に赤い小さな餅を食べさせると、馬は、体一面に汗とけむりを噴き出して、やがて、将軍を床にすんと落とします。将軍は、あらためて馬に鞍をのせて

またがり、今度はリンポー先生のところへ行って、長いあいだ砂漠にいたときに顔や手に生えた草をきれいにとってもらいます。

元気になった将軍は、ようやく王様にお目通りをします。王様は「じつに永らくご苦労だった。これからはもうここに居て、大将たちの大将として、なお忠勤をはげんでくれ。」というのですが、将軍は、涙をながして、これをことわり、ひまをもらって郷里に帰ります。

端的に「賢治の反戦思想を象徴している」作品としたのは境忠一です（『評伝宮澤賢治』1968年）。将軍や三人兄弟の医者が戯画化されて描かれ、戦場から戻った将軍のことばは韻文形で歌われて、小さなオペラのような楽しい作品ですが、その底にあるのは、戦わざるをえなかった者への深い慰藉（なぐさめ、いたわり）ではないでしょうか。

詩人の佐藤一英が編集した雑誌『児童文学』第一冊（1931年7月）に発表された作品です。（馬車別当）

（本文の引用は、新潮文庫『新編 銀河鉄道の夜』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 44

\*\*\*\*\*

「ここに来て、ありのままぜんぶを見るのがぼくの役目なんじゃないかって。まるで映画でも見る気分でテレビの画面をながめてるみんなのぶんまで……」

（『弟の戦争』 ロバート・ウェストール/作 原田勝/訳 徳間書店 1995年11月 p.144）

ロシアのウクライナ侵攻のニュースを映像で見るたびに、この本を思い出しています。この本は、湾岸戦争が起こった1990年のイギリスを舞台にしています。「ぼく」こと、主人公のトムは、3歳年下の弟、アンディをかわいがっており、二人きりのときは、フィギスという、アンディが生まれる前のトムの空想の友だちの名前で呼んでいました。

これまでも、アンディは、「突然なにかに引きつけられて、ほかのことはなにも考えられなくなってしまうこと」があり、家族をとまどわせていました。トムが15歳、アンディが12歳の夏休み、湾岸戦争が始まり、イギリスのテレビでその様子が放映されます。すると、アンディの体はイラクで戦争に巻き込まれている少年、ラティーフにだんだんと同化していきます。つまり、アンディの体はイギリスにいながら、ラティーフと同じものを見て、同じ体験をするようになるのです。同化している時間が長くなったことで、アンディは精神病院に入院し、アラビア語を話していることがわかります。

トムは精神病院を訪ね、毎晩爆撃を体験する「ラティーフ」の日常を生きるアンディを見守ります。すると、「兄さん」とフィギスが覚醒し、トムが「もどってこられないのか。こっちへ、ぼくたちのところへ？」と聞きますが、「ラティーフが強すぎるから。」と答えます。そして、フィギスは「ああ、兄さん、こっちはひどいよ……」と言い、冒頭の引用のことばを述べ、「どうしてもみ

んなに知ってほしいんだよ。ラティーフもアクバルもアリーも普通の人間なんだって……」と言います。

爆撃の状況を高い上空から撮影した映像からは市民が逃げまどい、命を落とす様子は見えません。湾岸戦争のとき、アメリカ合衆国をはじめとする多国籍軍は、正義を訴えました。けれど、命を落としていたのは、映像を見ている「人間」と同じ「人間」です。そのことを、アンディを通して、トムも読者も実感します。原書は1992年に出版されましたが、今読んでも「戦争」をいかにとらえるかということについて深く考えさせられる本だと思いました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

東大阪市民美術センターで3月12日まで開催されている「ブラチスラバ世界絵本原画展 絵本でひらくアジアの扉」に行ってきました。ブラチスラバ世界絵本原画展(BIB)は、スロバキア共和国の首都ブラチスラバで2年ごとに開催される、世界最大規模の絵本原画コンクールです。今回の日本の巡回展では、BIB2021(第28回展)に出品された日本と韓国の全作品の原画、各賞受賞作品のパネル、絵本などが展示されています。

絵本の原画には、作品の解説と作家のコメントがつけられていて、手にとってみることができる絵本もあります。韓国は14人の作家の作品が展示されていました。金のりんご賞を受賞したイ・ミョンエの『明日は晴れるでしょう』は、黄色い線が画面ごとに鉄棒や階段、本棚など、いろいろなものに見立てられて、たくさんの人が運動をしたり、寝そべったり、さまざまなことをしています。黄色い線が点字ブロックになっている絵では、白杖を使って歩いている人がいても気にとめることなく、足早に歩き続ける人々の雑踏を描いた絵が現実的だなと感じました。オ・セナさんの『黒うさぎ』は、真っ黒のうさぎがゴミにたとえられていて、とても現代的だと思いました。韓国の作品は色彩が美しい絵が多く、ほとんどの作品がデジタル処理をしている点が印象に残りました。

日本の作品は15人の17作品が展示されていて、どれも見覚えのある作品でうれしくなりました。金牌を受賞したしおたにまみこ『たまごのはなし』(ブロンズ新社2021年)は、本当にキッチンにいるような写実的な絵に、顔のついたたまごたちがシュールです。人形や習作の原画、制作についての作家のインタビューもありました。荒井真紀のしかけ絵本『まどのむこうのくだものなあに?』(福音館書店2020年)の原画は、近くで見ると色も筆遣いも精巧で、くだものいい匂いがしてきそうに感じました

原画のあとに、韓国と日本それぞれに「うみだす」「そだてる」「とどける」「ひろがる」のテーマで絵本の制作過程や、作家の育成、出版、本にかかわる施設などが紹介されたコーナーがあり、絵本について異なる角度から考えることができ興味深かったです。(K)

東大阪市民美術センター <https://hos-higashiosaka-art.com/>

■ ————— ■

【3】全国のイベント紹介

● 講演会「えがくこと&つくること」

日時：3月12日(日) 14:00~16:00 場所：吹田市立中央図書館

講師：堀川理万子(画家、絵本作家)

定員：40人 参加費：無料 中学生~大人対象 要申し込み

主催：吹田子どもの本連絡会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

BL出版から出版された「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」の大賞受賞作品『木箱の蝶』(藪口莉那作、横須賀香絵)と『みかんきょうだいのたんけん』(ホソカワレイコ作)を各1名の方にプレゼントします。 詳細↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#38shuppan](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#38shuppan)

ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.150 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)希望の書名、よろしければ (6)このメルマガのご感想をお書きのうえ

office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は3月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

マスクの着脱が個人の判断にゆだねられることになり、卒業式をはじめ、各種イベントなども3年ぶりに以前とほぼ同じよう開催されるようになってきました。人と人とが交流する場の意味を改めて考えています。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp